

第18回宇部・小野田圏域緩和ケア 事例検討会

切れ目のない緩和ケアを実施するために、地域の医療従事者が集い、多職種による事例検討を行います。

今回は、痛みや吐気等の症状あり不安が大きく入院継続を希望していた尿管がんの患者さんが、在宅緩和ケア導入により最期まで家で過ごせた事例を振り返ります。患者さんのADLが保たれた時期で在宅療養へ移行し、よりよい在宅療養を実現していくために必要な支援について考えていきたいと思えます。

宇部協立病院の立石先生にもお越しいただいて、地域での在宅緩和ケア活動についてご紹介をお願いしております。皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成30年12月27日(木)17:30～18:30(17:00受付開始)

場所：山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階多目的室1

(別紙会場案内図をご参照ください)

※お車でお越しの方は病院外来の駐車場をご利用ください。
駐車券は、無料パンチをいたしますので、会場までご持参ください。

参加費：無料 対象：医療関係者

17:30～18:30 演者より事例提示後、グループディスカッション

治療継続を希望していたが在宅緩和ケア導入により最期まで家で過ごせた尿管がん事例

山口大学医学部附属病院 泌尿器科
松村 正文先生
山口大学医学部附属病院 看護部
多賀谷 理子先生
宇部協立病院 地域連携在宅医療科
立石 彰男先生
三隅 恵美先生



お問い合わせ先：山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター事務局
Tel：0836-85-3070 FAX：0836-85-3071
E-mail：y-kanwa@yamaguchi-u.ac.jp

共催：山口大学医学部附属病院緩和ケアセンター(平成30年第7回緩和ケアセンターセミナー)
山口大学医学部附属病院腫瘍センター(第98回腫瘍センターセミナー)
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム(平成30年第6回がん治療スキルアップセミナー)